

一番印象に残ったのは盛岡城跡と浄土寺でした。……浄土寺は、宮澤賢治が受験勉強のために下宿したお寺です。ここでは、「僧の妻の面影」が勉強している場所と賢治が勉強している場所を見ることが出来ました。柱はとても古く、所々に傷があり、それに触れることで賢治の学生時代にやってくるような感じがして来ました。また、私は賢治の詩を読んで、お寺に朝がやってくる様子を青や

私は福島県出身で、岩手には大学に入学してから住み始めました。そんな私の父は宮澤賢治が好きで、私と姉の小学校卒業文集には「雨ニモマケズ」の詩を書いていました。母も宮澤賢治、さらに石川啄木の小説や詩が好きで私に時々詩を教えてくれていました。私に会いに岩手に来る母は、決まって農業教育資料館や盛岡城跡(岩手公園)にも足を運びます。バスツアーで見た所の中には、母が行ったことのある場所も含まれていました。

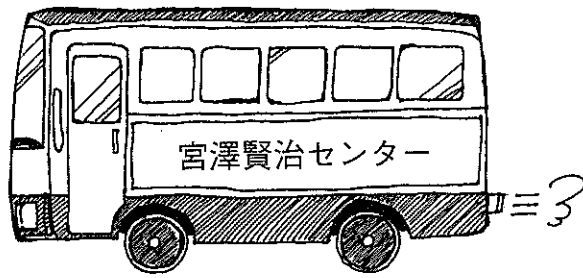


真田良枝
(岩手大学教育学部一年)

過去と
未来のある地へ

緑の色を用いて美しく表現していると感じました。

今回のバスツアーでは、僅かな時間で宮澤賢治・石川啄木の思い出の地へ行くことが出来、彼らがすぐ隣にいたような気持ちになれる、そんな貴重な体験をすることが出来ました。また、両親が行ったことのない場所も多かったことで、次は私が案内をして一緒に身に行きたいと思いました。

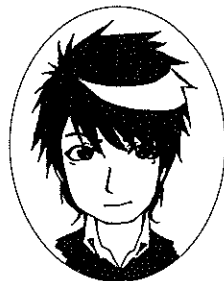


学生特集 3

第1回宮澤賢治センターバスツアー(学生編)印象記

宮澤賢治センター企画として、「賢治ツアー」を行います。2006年度には、3回を予定しています。(7頁の「2006年度中心行事」をご覧ください。今回は、その第1回として、7月19日(水)に「学生対象・盛岡市内ツアー」を行いました。次回は、9月3日(日)盛岡・花巻コース(募集中)先着40名

今回のバスツアーでは、岩手大学に近い所にある賢治(啄木)のゆかりのある場所を巡ったのだが、正直自分が一番驚いたのは、バスツアーで通った道のほとんどが私が今まで通ったことがなかったことである。

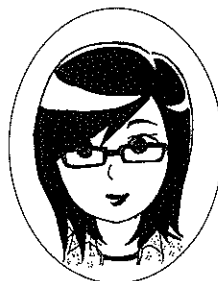


藤原征司
(岩手大学教育学部三年)

ほとんどが今まで通ったことのある道だった

それに、事実私は今回立ち寄った「啄木新婚の家」の場所ならば、看板ならば見たことがあった。しかし、今までは自分で行く気も起こらず、ただいつも通り過ぎるのが当然であった。他の場所についても同じことが言える。下の橋にある賢治の「ちやがちやがうまこ」の歌碑や岩手公園の石碑は、今まではチラッと見る

街自体もそんなに都会化せず、今のようなまま残っていてもいいとも、ふと思った。面白く感じたのは、二人とも岩手公園に来てはいても、啄木の時代はまだ「岩手公園」ではなく、一方賢治の時代は「岩手公園」だったという点だ。啄木が寂ころんである有名な短歌をつくれた時は、まだ整備されていない岩手公園で、啄木・賢治とも同じ場所に来ていながら、それぞれ異なる風景でそれだけが違う感慨にふけつたのだろうかと思うと何だか面白かった。……(岩手公園)の開設は、明治三十九年。啄木二十歳。賢治三十歳。)



荒澤夏美
(岩手大学教育学部三年)

案外知らない部分もあり

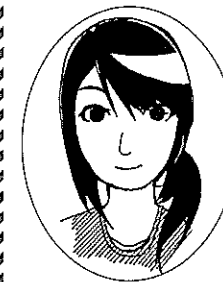
農業教育資料館から材木町を通って啄木新婚の家を行ったら、盛岡城跡というところで岩手公園に行つた。啄木・賢治も立っただろう場所から眼下に見える景色を眺めると、そんなに都会化していない盛岡でも、当時よりは大変変わったであろう風景に、彼らはどう思うか気になった。盛岡の

ただで誰の作品も見えていなかったのだ。……材木町の賢治の像には、チェロや鉄道など作品にまつわるものが工夫されていたこと。また、岩手公園(盛岡城跡)は、盛岡中学校跡と近く、啄木歌碑の所からは、当時岩手山がきれいに見えたこと。浄土寺の住職から聞いた賢治の話。最後に行った浄土寺の門の所に書いてあった賢治の話など、……時代は変わっていても、その時から感じられる臨場感や当時から語りつがれている話を、より一層リアルに取り入れることができたと思う。(浄土寺は、賢治が高等農林受験準備をした寺。住職は松尾師。)

学生特集 2
学生インタビュー
学生編

「宮澤賢治センター」に属する学生に以下の4点を質問させていただきました。
①宮澤賢治に関心を持った契機を教えてください。
②今、どのようなことに関心を持っていますか。
③将来についてどのような希望を持っていますか。
④「宮澤賢治センター」(岩手大学内)への希望を聞かせてください。

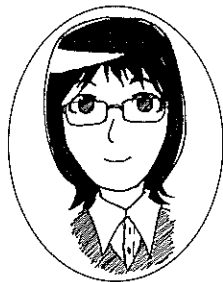
(インタビュー/稲垣大助・飯村裕樹)



野村 香菜子さん
(岩手大学教育学部四年)

①最初は、小学生のときの学芸会で「銀河鉄道の夜」の賢治作品に触れました。そのときは「不思議な作品だなあ」くらいにしか思いませんでした。そして、大学に入学し望月研究室に所属して、先生や先輩方の研究で賢治作品に再び触れる機会があり、小学生のときには知らなかった、生きていくときの賢治の姿や話を知り、関心を持ちました。
②童話や詩などから、多くの人が持っている、美しい

「賢治のイメージ」と、実際の生きていくときの賢治は違っていたのかというギャップについて知りたいと思います。私自身、作品から受ける賢治のイメージと、自身の人間としての賢治にギャップを感じたので、どうしてこのようなギャップが生まれているのかを考えたんです。また、賢治作品で多く見られる「賢治の色彩感覚」はどのようにして培われたのかなどもっと良く知りたと思っています。賢治は色に



結城 奈津子さん
(岩手大学教育学部四年)

①高校一年生のときに、「銀河鉄道の夜」のパロディの劇をやったことです。その中で賢治の世界をどう表現するべきか考え、賢治の作品を片っ端から読みました。その中で、賢治の世界には幻想的なものが多いことを知り、また、青が作り出す世界というものに惹かれました。
②賢治関係では、賢治の描いた童話世界の明るさと、農業の詩の暗さの違いから、

このままで賢治作品は残ったのか、今でも愛される理由というものを自分なりに考えていきたいと思っています。④もつと多くの人に宮澤賢治の世界を味わい、知ってほしいと思います。まだセンターの存在を知らない人も多いと思うので、より多くの人に知ってもらいたいとも思います。また、賢治作品に興味を持った人たちが自分の感想や考えを、気軽に交流できる場にしてほしいと思います。
誰でも興味を持っては入れるような、明るく楽しい「宮澤賢治センター」にしてほしいと思います。

①小学校の時、田舎のお祭りの山車の題材として「注文の多い料理店」が使われていたのを見ました。その後、小学校の図書館で偶然同タイトルの本を見つけ、夢中になって読んで、夢中に賢治作品に興味を持った出来事でした。
②社会的な問題として、北朝鮮に対する問題(拉致問題・ミサイル問題・核問題)に関心を持っています。これは、長い間日本が抱えてきた問題であると思えます。この問題は、世界共通の問題として取り組む必要があると思います。
③今の夢としては、駅員という職を目指すが、または中学校の国語の教員という職を目指すか、という二つの



芳賀 洋平さん
(盛岡大学文学部三年)

ていこうと思っています。④現在教員を目指し、がんばっています。ただ、どんな職に就くとしても、その地域の特色や歴史に残る人物を重視し、それらを広めたり、残したりすることにやり組んでいきたいです。また、卒論研究をさらに発展させ、もつと「銭形平次」

道を考えています。職業選択をする上で、例えばすでに職に就いている友人の「職業観」は、私にとって大いに参考になっております。これからの道を選択する上で、賢治研究のように様々な目線から考えていきたいと思っています。
④今始まったばかりだと思いますが、これから賢治に関心を持つコミュニティの一つとして、学生のみならず一般の人も巻き込んだ形で機能することを望みます。そして、様々な人の様々な「目」を通して、賢治の作品や人となりを深く研究し、交流を深めていく。その底辺部分として、「宮澤賢治センター」が存在していくことを願っております。

月例研究会

「宮澤賢治センター」は、本年度の中心事業を二つとしている。「第一回全国宮澤賢治学生大会」「二頁及び八頁参照」と、月一回程度を目安とする「定例研究会」である。

第一回定例研究会

第一回月例研究会は、六月二十九日(木)十七時から教育学部二号館会議室で行われた。第一回ということもあり、代表の望月善次会員が話題提供を行った。演題は「羅須地人協会時代の絶望の深さ」賢治時代の契機の一つとして」とするものであった。

望月会員は、妹トシへの手紙(大正六年一月十六日/書簡番号30)を引きながら、盛岡高等農林学校時代には、賢治は決して農業的な仕事を希望したわけではなかったことから始めた後、詩「二〇八二『あすこの田はねえ』」などを引きながら賢治の農業に対する見識が上がって行ったことと及んだ。しかし、それ故に「二〇四二『同心町の夜あけがた』」のように深い絶望と向かい合わねばならなかったわけであり、そうした体験を通しながら、賢治は、甦り、より深く人生を生きるように

なったのだと締めくくった。その後、砂山稔副代表の司会のもと、参加者とのやりとりがあった。参加者約三十名。

宮澤賢治センター開設ミニ・パーティー

第一回定例研究会終了の後、会場を岩手大学内のイン・シーズンに移して、宮澤賢治センター開設ミニ・パーティーを行った。望月善次代表、平山健一岩手大学学長の挨拶の後、砂山稔副代表の発声で乾杯した。

秋田淳子講師による華やかにして軽妙な司会により、会は終始和やかな雰囲気の中に進行した。

盛岡市内の学外の方や宮城県からの参加の方もおられて和やかに熱く賢治に関する思いを交流した。

第二回定例研究会

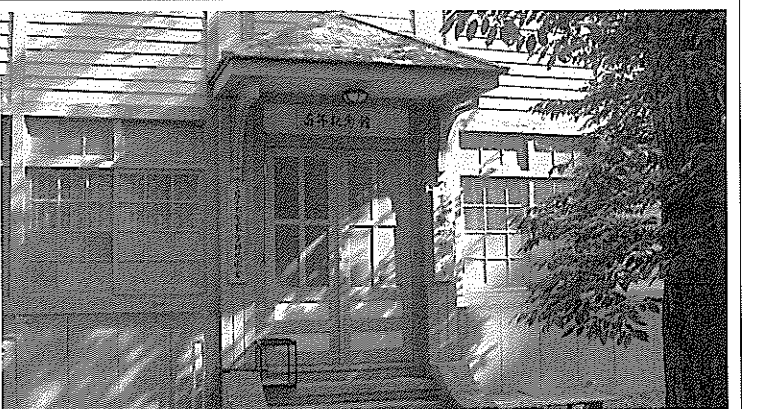
第二回定例研究会は、人文社会科学部一号館二階第一会議室で行われた。人文社会科学部の「国際文化研究会」・「宮澤賢治研究会」との共催でもあった。こうした「共催的開催」にも、積極的に取り組もう、とするのが、宮澤賢

治センターの基本的考えでもある。話題提供者は、人文社会科学部非常勤講師の松元季久代会員であった。演題は「森に隠された三陸アワビ騒動」学際的研究の宝庫としての賢治」であり、以下を骨格とするものであった。

- 一、自己紹介・文学と言語表現、文学と同時代史の関係研究からの起點
- 二、危機としての宮澤賢治
- 三、賢治の実像に近づいために「賢治電話」に隠された歴史の「寓意」を読む
- 1、研究史の空白
- 2、ファンタジーに根はないのか?
- 3、ネネムの受難幻想入空の漁魚を解説する
- 4、地域史との照応関係「昆布採り挿話」と「三陸アワビ騒動」
- 5、「銀河鉄道の夜」に至る事件の影
- 四、賢治探しVにおける学際的研究の可能性

賢治研究の現状を踏まえ、新論点を提出したレベルの高い発表であった。発表後、山本昭彦事務局長の司会により質疑「興味深い内容だった。」等の意見交換があった。参加者約三十五名。

宮澤賢治記念短歌会



宮澤賢治センターの設置場所「百年記念館」は、農学部同窓会(「北水会」)ゆかりの建物。センターの連絡場所は、地域連携推進センターに置いている。農学部や北水会の支援・協力のもと、役員会や「宮澤賢治記念短歌会」などで使われてきている。

宮澤賢治の高等農林学校時代の創作の中心は短歌であった。その概要は、妹トシやシゲなどの整理による所謂「歌集」(A)と、それを踏まえた「歌稿」(B)とによって知ることが出来る。この賢治の短歌を記念して、宮澤賢治センター自主企画の一つとして、「宮澤賢治記念短歌会」を行うこととした。

月一回開催を目安にして、今のところ二回を行っている。第一回が、七月六日(木)、第二回を八月四日(金)に、いずれも「百年記念館」を会場に行行った。

内容は、望月善次会員による賢治短歌のミニ講義と参加者による創作短歌会である。

賢治短歌ミニ講義は、今までも二回は、いずれも、賢治「歌稿」のコピーを用いて行われた。第一回は、「歌稿」(B)の有名な「右歌稿ハ発表を要セス」表紙部分の解説が行われた。「右歌稿ハ発表を要セス」と並んで「童話ソノ他スベテ発表ヲ要セス」と記された点にも注目すべきであるというが、望月会員の強調点の一つ)。また、第二回においては、「歌稿」(A)、「歌稿」(B)との一部が配付され、「歌稿」(A)では、一行で書かれていたものが、「歌稿」(B)においては、複数行化されることや、

著しい書き込みの跡などが紹介・解説された。

創作短歌については、予め投稿されたものを別途印刷し直し、その披露の後、参加者各人が選(今のところ一人五首選)をするという「歌会」方式で行っている。

第二回作品からの抜粋

雪解けに音し流るるタネリ
の溪小鳥さえずる種山は春
(大林あや子)

飼い猫に「ネコ」と名付けて「ネコネコ！」呼んでる姉が猫なで声で
(北田まゆみ)

かなうならジグンの頭突きしてみたく思(も)う人が我にもおりぬ
(佐藤静子)

大粒の水麦茶の中で揺れるポロアバートの風鈴となる
(平田真子)

ダラスコグン、ダンコングラスコ、ダラスコグン。夏の暑さに参差のリズム
(向井田薫)

緑なすブナの林の重なりを湛えて湖はエメラルドグリーン
(吉田直美)

◆ 第三回は、九月六日(水)十四時四十五分から同じく「百年記念館」。

学生特集 2

学生インタビュー

一般編

「宮澤賢治センター」会員の森三紗さん、伊藤利巳さん、向井田薫さんに以下の四点についてお話を伺いました。

- ①宮澤賢治に関心を持った契機を教えてください。
- ②今、どのようなことに関心を持っていらっしゃいますか。
- ③将来についてどのような希望をお持ちですか。
- ④「宮澤賢治センター」(岩手大学内)への希望をお聞かせください。

(インタビュー／稲垣大助・飯村裕樹)



伊藤 利巳さん

①私は花巻の出身なのですが、「雨ニモマケズ」の詩碑のある場所で、学生時代よく遊んでいました。そこで、自ずと宮澤賢治に関心を持つようになりました。

②今、私は福祉関係の仕事をしています。元々は県庁の方で農業関係の仕事をしていました。そのことから、農業をはじめ福祉、教育と

①私は花巻の出身なのですが、この分野にも関心を持ちました。教育の面においては、「憲法九条の会」にも所属していますので、そのような側面からの教育という分野に興味をもっています。また、そのような側面から宮澤賢治という人物を見ていきたいと思っています。

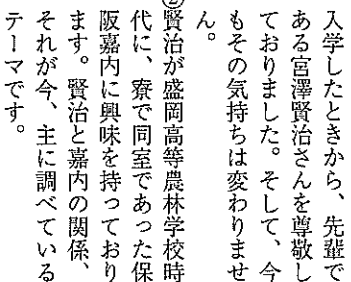
③先程のように、私は農業関係の仕事に従事していま



森 三紗さん

①私が小学校四年生のとき、父と兄弟と共に宮澤家を訪問しました。その際、代表的な賢治作品の一つである「風の又三郎」を読み、感動しました。それが、宮澤賢治に興味を持った契機となります。

②今は、賢治の詩に興味を持っています。最近の活動としては、NHK文化センター



向井田 薫さん

①私は、盛岡高等農林学校に入学したときから、先輩である宮澤賢治さんを尊敬しておりました。そして、今もその気持ちは変わりません。

②賢治が盛岡高等農林学校時代に、寮で同室であった保阪嘉内に興味を持っており、それが今、主に調べているテーマです。

③将来としては、森荘巴池に焦点を当て、その側面から賢治を理解していくため一歩一歩歩んでいきたいと思っています。

④「宮澤賢治センター」には、お互いに連絡し合えるような会員名簿を作っていたらいいと思います。そのことで、会員同士の様々な交流が生まれるのではないのでしょうか。

で賢治の詩を読むことをテーマとした講座を開講しております。そこでは、詩集「春と修羅」中の詩を「作品」丁寧に精読しております。それを通してわかったことは、第二集、第三集を読む上で、その「背景」が重要になってくるということです。賢治の詩の「背景」に隠された知識を身に付けて賢治の詩を読むと、解釈と鑑賞がわかりやすい形で行えると思います。

最後にPRも含めて言わせていただくと、私が副代表理事を務めている宮澤賢治学会が主催する「風のセミナー」(八月二十三日、二十四日)において、二十四日、田瀬小学校において「祭の晩」をテーマとした講演を行ないます。加えて八月二十五日から行う「宮澤賢治生誕一〇〇年記念国際研究大会」にもご参加くだされば幸いです。

③将来的には大きく三つのことを考えております。まず一つ目は、これまで第二詩集まで出した私自身の詩集の「第三」を出すことです。二つ目は、高齢になった母の詩集を出すことです。それを、近くにいながまだ読んでほしい、私の子供や孫にも読んでほしい、私自身も読んでほしい、私自身の父である森荘巴池が賢治の詩にどういった影響を及ぼしたのかについて明らかにしていくことです。

④「宮澤賢治センター」には、学生でもいいので誰かチャーターを置いて作品を読む会を行ってほしいと思います。定例研究会では、「研究発表」のあとに、そこで扱われた作品を読む会を開くのはいかがでしょうか。

2006年度

中心行事

1. 学生企画による「第1回全国宮澤賢治学生大会」〔2006年8月28日(月)29日(火)〕
2. 定例研究会
6月29日(木)を第1回とし、以後継続的に行う。
3. その他
宮澤賢治ツアー
第1回 学生対象(盛岡市内バスツアー) 7月19日(水) 8時30分~12時
第2回 一般対象(盛岡・花巻バスツアー) 9月3日(日) 8時30分~16時
★募集中(参加料3,000円(昼食代、施設見学科、高速代金等)、先着40名)
第3回 小岩井農場ウォーク(岡澤敏男会員案内/小雨決行)(JR盛岡駅9:40~小岩井駅10:01)

4. 会員自主企画
 - 賢治関連ブックフェア(岩手大学生生活共同組合の協力を得て実施済)
 - 願教寺調査(目下願教寺へ依頼中で、学内プロジェクトへも申し込み)
 - 宮澤賢治記念短歌会〔賢治の高等農林学校時代の中心ジャンルであった「短歌」を記念して、賢治短歌の研究と創作短歌会を行う。(毎月1回)〕
 - その他


5. 後援事業
 - 「野の教育者宮澤賢治に学ぶ会」(会長川村勝)の三上満講演「野の教育者宮澤賢治」〔8月26日(土)13時~16時、岩手大学農学部農業教育資料館〕

【役員一覧】
当分の間、企画・運営は以下による「役員会」を中心として行います。

代表	望月善次(岩手大学教育学部)
副代表	砂山 稔(岩手大学人文社会科学部)
事務局長	山本昭彦(岩手大学人文社会科学部)
事務局次長	早川浩之(地域連携推進センター主査) 稲垣大助(岩手大学大学院教育学研究科)
その他の役員(五十音順)	
	秋田淳子(岩手大学人文社会科学部) 姉齒武司(工学部卒業生)
	安保佳一(北水会会長) 岡田幸助(岩手大学ミュージアム館長)
	小野伴忠(岩手大学農学部附属農業教育資料館館長) 玉真之介(理事、副学長)
	千葉則茂(地域連携推進センター長)

役員挨拶


新たな賢治学の構築を目指して



宮澤賢治センターの副代表を務めております人文社会科学部の砂山稔です。人文社会科学部で教員の同志と宮澤賢治研究会を興してから間もなく三年になろうとしています。この間、天沢退二郎氏、高橋世織氏を招いて講演会を二回開催し、会員相互の発表等を中心に研究会を九回行ってきました。また、賢治の足跡を尋ねるサハリン旅行にも挑戦したのです。現在、会員は二十二名と微増中で、センターの第二回目の月例研究会で発表して下さった松元季久代氏もメンバーです。賢治の地元である盛岡・花巻で賢治研究を推進して行くのは至難の事業だと思いますが、またそれだけに、やりがいのある仕事でもあります。

宮澤賢治センターは、各学部などの自主企画を取り入れる形で運営されていますので、これからも人文社会科学部の宮澤賢治研究会から積極的な企画を提案して行きたいと考えております。宜しくお願致します。

ブドリに再会



高校生の時だったか、初めて「グスコブドリの伝記」を読みびっくりしました。世の中にはこんなに偉い人がいるんだ、到底かなわない、と思いました。ブドリと賢治を素朴に重ね合わせて読んでいたのだと思います。東京に生まれた私は、東北のことも、農業のことも何も知りませんでした。また、受験勉強に疑問を感じ、数学が嫌いになり

始めていた頃でもありました。その時は慌てて自分の中で賢治に封印をしました。

その後、フランス文学を勉強し留学も経験してから、盛岡で教員として比較文学、フランス文学、表象文化論などを担当してきました。人文社会科学部には理系文系のみならず、双方にまたがったさまざまな分野の先生がいて、一緒に研究してみよう、という雰囲気が最近出てきました。聞いてみれば、皆さんずっと前から関心を抱きながら、それぞれやり方で「封印」をしてきていたように思えます。このセンターもさまざまな関心を持ち寄って情報交換の出る場であるといいな、と考えています。

熱や姿勢に感銘を受け、特に平山学長のセンターに対する大きな展望と強い思いを伺うにつけ、私もセンター成功への万分の一の力にでもなればばとの思いでおります。

ヘラクレイトスは「万物は流転する」として、自然界は変化の連続といったそうですが、トフラームフリードマンも新刊の中で、変化を捕らえる新しい感覚の重要性を訴えております。

賢治は又敏銳な感覚で時代を先取りし、その上で人間にある普遍性を捕らえ訴えたいと思います。そうした新しい「時」に生きる賢治を紹介し、学んでゆきたいと思っております。



私の賢治研究

私は、宮澤賢治センターにおける重点事業の一つである「第一回全国宮澤賢治学生大会」実行委員長を務めさせていただきます。同センターからは学生ながらも事務局次長という役職をいただいております。

私が賢治の魅力に取り付けられた契機は、大学二年生(学部)に受講した講義でした。その講義では、「なめとこ山の熊」や「庚十公園林」などの童話作品から植物に関係する表記を抽出し、実際に存在する植物との比較をするものでした。それらの比較をし、実際の植物の写真なども参考にして見ていくにつれ、賢治は本当に細かな植物の様子がわかりました。そして、すかさずそれを頭に思い浮かべながら再度同じ作品を読むと、驚くほど現実味を帯びた形で賢治作品の中に描かれる情景が目の前に広がったことを覚えております。当時は、賢治作品をあまり読んでいなかったせいか、「幻想性に富んでいる作品」という漠然としたこれ

賢治と私、そして今

「第一回全国宮澤賢治学生大会 実行委員長 稲垣大助 (岩手大学大学院教育学研究科一年)

といった根拠のないイメージしか持っておらず、そのためか、それほど興味を惹くものではありませんでした。しかし、先に挙げた現実味を帯びる作品中の箇所から、賢治作品には様々な魅力が隠されていることを知り、それをもっとよく知りたいという願望から、望月善次先生を訪ね「賢治研究」を始めました。

次に、私の今行っている賢治研究について簡単に紹介したいと思います。大きなテーマとしては「宮澤賢治の菜食主義思想」となります。これは、宮澤賢治が菜食主義者であることを全面的に肯定した見解で、そこに論理的根拠を付け加えようとするものであります。具体的に言うと、大正七年に賢治が保坂嘉内に宛てた書簡(No.63)を賢治が菜食主義者であることを初めて公表したものと捉え、その後、賢治の行った肉食の過程を踏まえた上で、賢治なりの菜食主義の形があったことを明らかにしていくものです。そのためには、様々な方面(宗教的見地、医学的見地、伝記的見地、作品的見地等)からのアプローチが必要とな

第一回学生大会

ここで、私が実行委員長を務める「第一回全国宮澤賢治学生大会」について紹介しましょう。本大会では、大きく三つの「交流」をしようと考えております。

まず一つ目は、「賢治の交流」です。これは、厳密に言うと「賢治を知るための交流」です。宮澤賢治または彼の残した作品は、今や日本だけでなく、世界的に研究がなされるほどの魅力を生んでいます。英訳された賢治作品が外国で売られているのは、その典型的な例として見ることができるといえるでしょう。宮澤賢治という名前は知っていても、その人自身は知らないという学生または一般の方には、賢治の生き様、賢治作品の魅力はこの大会で感じてもらいたいと考えております。

二つ目は、「学生間の交流」です。本大会の名称に「全国」を入れたのはこのためです。賢治を研究する学生や賢治作品が好きな学生、または、

学生特集① 第1回全国宮澤賢治学生大会

賢治がきっかけとなり何らかし始めた学生など、全国には賢治を愛する学生は多々おります。その中で、「学生は個々の狭い範囲で賢治を見るだけでいいのかわ」、「もっと広い範囲で賢治を見ていった方がいいのではないか」という考えのもと、賢治を根底においた学生同士のコミュニケーションを全国的にしていこうとするものが、本大会が「全国宮澤賢治学生大会」たる所以であります。大会を通して、各分野のたくさんの方々が交流し、次世代の賢治研究者ないしは賢治の魅力を支える伝道者相互のネットワーク作りができればと考えております。

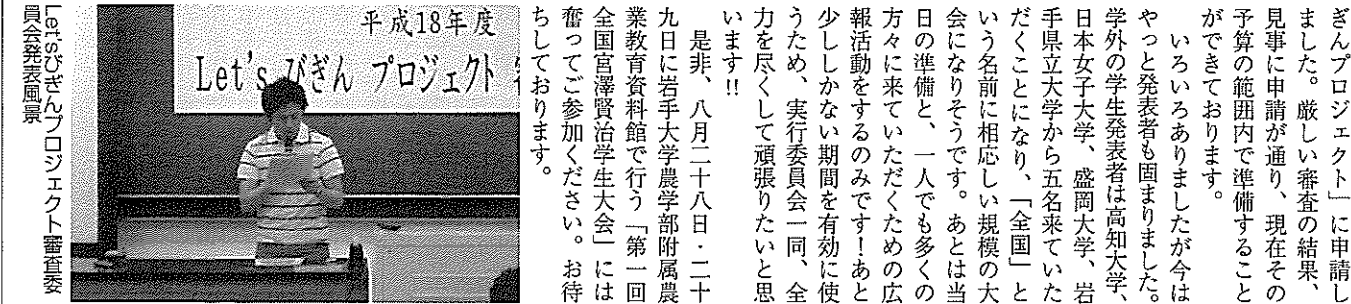
最後に三つ目は、「地域との交流」です。本大会は、賢治を愛する地域の方々も含めた形で進行いたします。賢治の生まれた地である岩手県花巻市に地元で賢治研究者が多いように、周辺地域の方々も知識は大きな財産となり受け継がれていきます。そのような中で、学生がいかに地域の方々に学べるか、いかに地域の方々に学ぶかという考えのもと、本大会を地域との架け橋にしたいと考えております。

この三つの「交流」を含んだ、「第一回全国宮澤賢治学生大会」は、その名の通り第一回目の大会です。その第一回大会を歴史に残る形で終わらせるように頑張りたいと思います。皆さん、是非八月二十八日・二十九日の学生大会におこしください。そして、新たな賢治の姿を探してみてください。歴史のページ目を見るのはあなたです！

学生大会準備状況

初めに、これまでの準備経緯を紹介しましょう。

準備を始めたのは四月の初旬でした。初めは、実行委員会のメンバーを探すことから行い、徐々に増えて今では主要メンバーだけで二十名近くまでなっております。こういった大会は初めてということもあり、実行委員会のメンバー同士で毎週火曜に「宮澤賢治センター」または「地域連携推進センター」(どちらも岩手大学内)で会議を行い、お互い意見を言い合ったり、時には宮澤賢治についての勉強会なども行ったりしました。会議では、準備において必要となる仕事の種類を限定し、セクションごとに担当者を決めた上で、責任を持って報告に当たるといった形式を取っております。そのことにより、全員参加型の実行委員会が出来上がってきたと思っております。大会準備に当たるときの予算は、岩手大学の学生企画事業をサポートする「Let'sび



「Let'sびざんプロジェクト」審査委員会発表風景

平成18年度 Let'sびざん プロジェクト

是非、八月二十八日・二十九日に岩手大学農学部附属農業教育資料館で行う「第一回全国宮澤賢治学生大会」には奮ってご参加ください。お待ちしております。

ざんプロジェクト」に申請しました。厳しい審査の結果、見事に申請が通り、現在その予算の範囲内で準備することができております。

いろいろなありました。今はやっと発表者も固まりました。学外の学生発表者は高知大学、日本女子大学、盛岡大学、岩手県立大学から五名来ていただくことになり、「全国」という名前に相応しい規模の大会になりそうです。あとは当日の準備と、一人でも多くの方々に来ていただくための広報活動をすのみです！あと少ししかない期間を有効に使うため、実行委員会一同、全力を尽くして頑張りたいと思っております！！

岩手大学は、本年度の開学記念日に当たる六月一日(木)に、平山健一学長の強い願いも込めて、「宮澤賢治センター」を発足させた。当日の看板掲式には、左の写真に示すように、宮澤賢治研究の中心、「宮澤賢治学会イーハトーブセンター」から森三紗副代表の参加を戴いた。

改めて言うまでもなく、岩手大学は、賢治が卒業した盛岡高等農林学校をその前身の一つとしている。つまり、賢治の母校である。こうした縁もあり、今までも、賢治に関心を持つ人は少なくなかったが、そうした人賢治への関心を結集すべく「宮澤賢治センター」を設立した。現在のところ、所謂学則に盛り込まれた組織ではなく、NPO的組織であり、学内関係者だけでなく、広く地域・学外の方々にも参加を呼びかけていると



センターの看板を掲げる左から、稲垣大助(学生代表)、平山健一(岩手大学学長)、森三紗(宮澤賢治学会イーハトーブセンター副代表)の各氏。(なお、看板の文字は、玉澤友基教育学部教授による。)

センターの看板を掲げる左から、稲垣大助(学生代表)、平山健一(岩手大学学長)、森三紗(宮澤賢治学会イーハトーブセンター副代表)の各氏。(なお、看板の文字は、玉澤友基教育学部教授による。)

「どなたもどうかお入りください」
「賢治への関心」それだけが条件です。

ところが特徴である。キャッチフレーズの言えは、「どなたもどうかお入りください」。賢治に関心のあることだけが条件です。(当分会費徴収なし)ということになる。

賢治の時代に本部であった農学部附属農業教育資料館は、現在では重要文化財に指定されている。また、事務的連絡場所は、

岩手大学地域連携推進センターにおいている。(現在登録会員数三二一名)

「多くの方々の賢治への関心を結集することを目指しているから、具体的事業も、通常の会のようなタイトなものではなく、ゆるやかな運営を目指している。本年度は「一、月例研究会 二、第一回全国宮澤賢治学生大会」を並んで、啄木有志を中心とした「自主企画」を考えている。(詳細については、七頁の「二〇〇六年度中心行事」参照。)

宮澤賢治センターの代表をお引き受けることになった望月善次(もちづき・よしつぐ)です。賢治に対しては、「敬遠のフォアボール」を投げた一人なので、運命の不可思議に驚かされています。元々が、(国語科)教師教育研究と並んで、啄木研究に志していたこともあり、「賢治の立派さ」に惚れ惚れしているところもあって、たまたまあつたのです。

学生時代に、賢治研究の泰斗分銅博作先生(元実践女子大学学長)の講義も受けたのですが、トンデモナイ学生でしたから、先生のもとに集まった優秀な同級生達のように賢治に入れ込むということもなかったのです。

しかし、縁あって岩手大学に職を得ることになり、また



代表挨拶
賢治のどうしようもなさ
～に絡めとられる過程～
望月 善次
Takamitsu Tsukune

共感もあつたのです。いずれにしても、「賢治に絡めとられた」のです。それ故に、「賢治へ至る道」が様々なことを確信するのです。みなさんと共に賢治を語り合える幸いと思うのです。どうぞよろしくお願致します。

宮澤賢治センター通信

(岩手大学内)

創刊号

発行人
〒020-8551
盛岡市上田四丁目3番5号
電話 019-621-6672
FAX 019-621-6493
宮澤賢治センター(岩手大学内)
発行責任者 望月善次
(題字/金森由利子)
(カット/高松ゆたか・安孫子龍美)

目次

<学生特集号>

- 宮澤賢治センター発足/代表挨拶...1
- 学生特集①...2
- 第1回全国宮澤賢治学生大会
委員長挨拶/準備状況
- 学生特集②...3・4
- インタビュー(一般編・学生編)
- 学生特集③...5
- 第1回宮澤賢治センターバスツアー
- 月例研究会/宮澤賢治記念短歌会...6
- 行事予定/役員一覧/役員挨拶...7
- 第1回全国宮澤賢治学生大会...8
- ポスター/編集後記/奥付

発足した「宮澤賢治学会」にも入会することになり、段々と賢治との繋がりが深いものとなって行つたのです。

多くの人に支えられながら行つて来た「岩手大学公開講座 石川啄木の世界」は、本年度で第十四回を迎え、丁度去る七月十五日(土)にその幕を閉じたところですが、その第四回からは、賢治についての講座も平行して行つたのです。また、「啄木短歌を讀む会」である「啄木月曜会」においても、ここ数年は、賢治短歌をも併せて読んで来たのです。宮澤賢治学会においても、数期の理事を勤め、萩原昌好代表理事時代には、副代表理事も勤めてしまつたのです。賢治についても、以前よりは、知るようになり、生活人としての賢治の「どうしようもなさ」についても触れ、それへの深い

第1回全国宮澤賢治学生大会



◆日時 平成18年8月28日(月)・29日(火)

◆会場 岩手大学キャンパス 岩手大学農学部附属農業教育資料館
(〒020-8550 盛岡市上田3丁目18-33)

◆日程

第1日 8月28日(月) 受付9:00～(定員:150名)

～入場無料～

- オープニング 9:40～10:00
- 研究交流(学内2名、学外2名) 10:00～12:00
- 昼食・休憩 12:00～13:00
- 基調講演 13:00～14:30
-講師-
原子朗氏(宮澤賢治イーハトーブ館・館長)
プラウト・アブラハム・シヨージ氏(イノ・ノール大学准教授)
- パネル・ディスカッション「学生の見る宮澤賢治」 15:00～17:00
コーディネーター:望月善次氏(学内2名、学外2名)
- 懇親会 18:00～

第2日 8月29日(火) 集合8:40(定員:50名)

- 実地研修 9:00～12:00
バスを借り、盛岡市内の賢治に関係する施設や場所などを見学・講評・解散

* 大会参加申し込みは定員に達し次第、締め切りとさせていただきます。
* 懇親会、実地研修に参加される方につきましては、参加料保険料が別途必要になります。

◆連絡先 〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18-34 岩手大学学務部学生支援課気付
Let'sびびんプロジェクト「第1回全国宮澤賢治学生大会」行
TEL:019-621-6672 FAX:019-621-6493 E-mail:kenji_zenkoku@hotmail.co.jp
URL:http://kenji.bokunenjin.com/

第1回全国宮澤賢治学生大会ポスター

◆編集後記

「宮澤賢治センター通信」創刊号をお届けします。「第1回全国宮澤賢治学生大会」を控えていることもあり、「学生特集」としました。対象記事もですが、題字、カット、記事作成と本誌面の作成に学生諸君が活躍してくれました。センターの将来ここにあり。(善)

○「疲れたー」でも、「第1回全国宮澤賢治学生大会」を成功させるゾ!

○記事を書く、学生大会、盛岡、初めてづくし。しかし、一歩ずつ前進したい。(裕)

◆入会案内

「賢治への関心、それだけが条件です。(会費は徴収しません。)」左記へ、ファックス、電話、Eメール、文書等の御都合のよいもので申し込んでください。

◆連絡方法

原則としてEメールで行います。Eメールアドレスをお持ちの方はお教えください。それ以外の方のみ文書連絡とします。

◆宮澤賢治センター通信

発行 2006年8月5日

盛岡市上田四丁目三番五号
電話 019-621-6672
FAX 019-621-6493
E-mail:kenji@wate-u.ac.jp
宮澤賢治センター(岩手大学内)
発行責任者 望月善次
印刷 社陵高速印刷株式会社